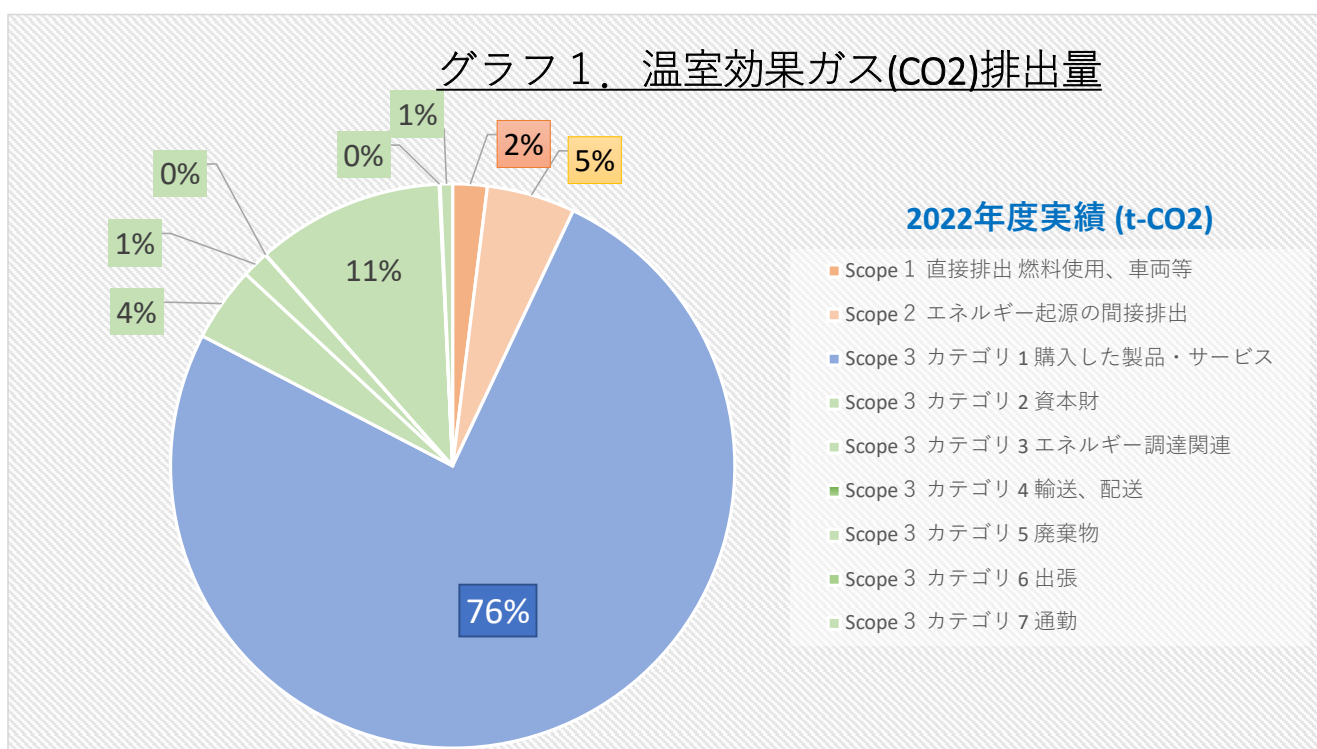


**GHG温室効果ガス(CO2)排出量**

(単位：t-CO2)

			2022年度実績	比率	算出方法
Scope 1	直接排出	燃料使用、車両等	1,158.5	2.0%	省エネ法燃料使用量、自社自動車
Scope 2	エネルギー起源の間接排出		2,973.1	5.1%	省エネ法購入電力量
Scope 3	カテゴリ 1	購入した製品・サービス	44,413.9	75.6%	購入原材料費
	2	資本財	2,510.7	4.3%	減価償却費
	3	エネルギー調達関連	918.4	1.6%	購入電力量
	4	輸送、配送	9.0	0.0%	自社原材料納入、出荷配送
	5	廃棄物	6,327.6	10.8%	廃棄物種別重量
	6	出張	30.2	0.1%	従業員数
	7	通勤	419.2	0.7%	従業員数
合計			58,760.6	100.0%	



★温室効果ガス排出削減目標(SBTi承認：2023年3月)

「2030年までに、Scope1+Scope2総排出量を42%削減する」(基準2021年)

「Scope3の排出量を測定し削減することを約束する」(基準2021年)

まとめ； グラフ1. 2022年度 GHG排出量の実績において、Scope 3 カテゴリ 5 「購入した製品」が76%を占めており、当社の医薬品製造用原料が高価であることから、抜本的な削減は難しい状況である。

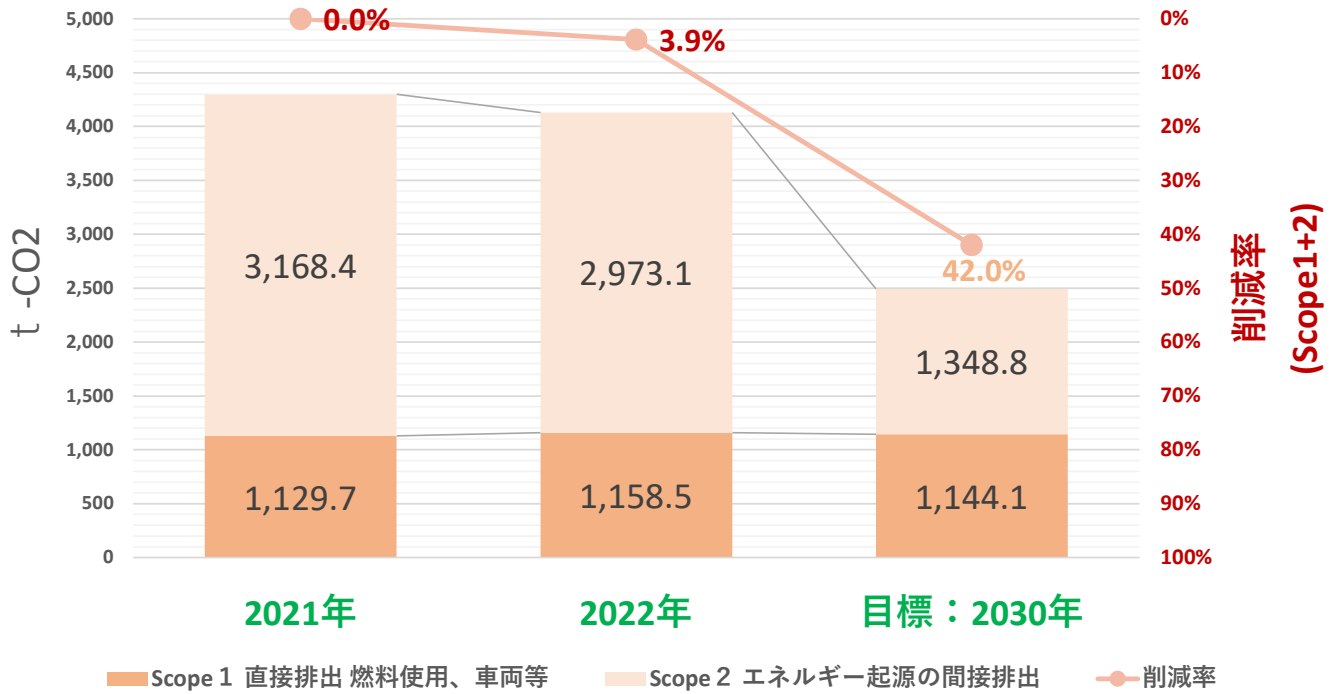
グラフ2. Scope 2 の「電力量」について、太陽光発電パネル新設や電力供給会社のエコプラン導入により、GHG排出量を削減することができ、Scope1+2で3.9%削減できた。来年以降も同様の削減策を推進する。

※削減実績量：太陽光発電パネル(3.3 t-CO2)、エコプラン(73.2 t-CO2)：Scope1+2削減比率(1.9%削減)。

グラフ3. Scope3については、一部医薬品の製造量増加に伴い、カテゴリ 1 の「購入した製品(原材料費)」や、カテゴリ 5 「廃棄物」が増加している。引き続き、Scope3の排出量の推移を確認し、削減に向けた方策を検討する。

以上

### グラフ 2. GHG排出量 (Scope1+2)



### グラフ 3. GHG排出量 (Scope3)

